

# トラック輸送情報（平成19年8月分）

平成19年11月13日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

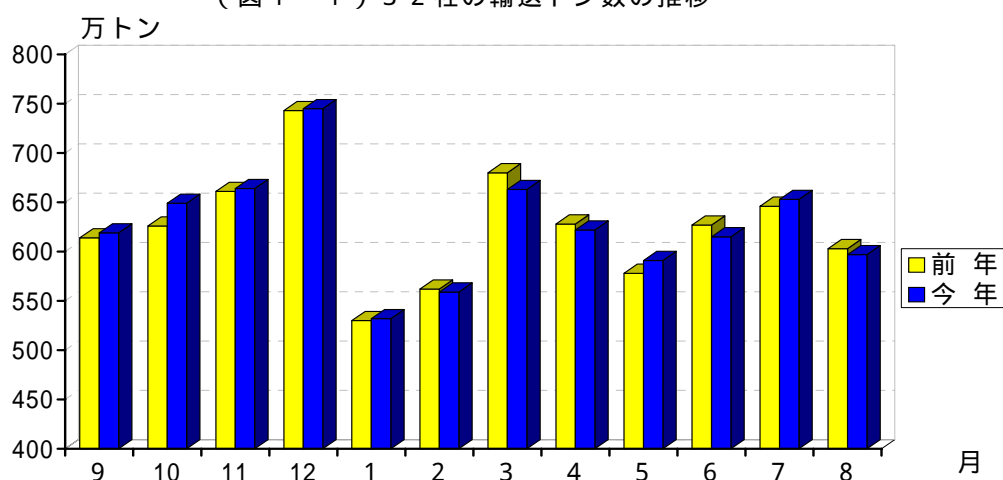
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,970,042トンで、前月と比べ総輸送量が約56万トン減少したため、前月比91.4%（季節調整済み100.5%）となり、前年同月との比較では、約6万トン減少したため、前年同月比99.0%の実績であった。

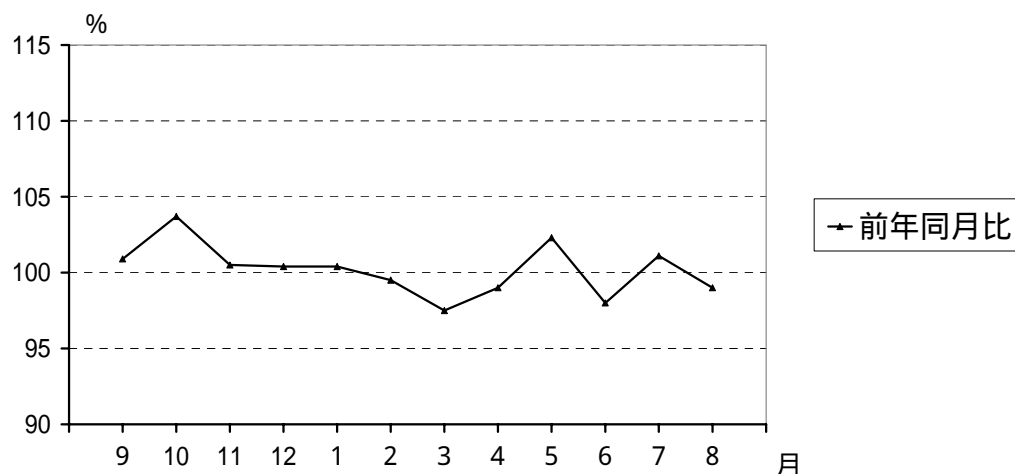
なお、平均稼働日数は23.5日で、前月と比べ0.9日の減少、前年同月と比べ0.4日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、254,044トンで、前月と比べ約1万4千トン減少したため、前月比94.9%となり、前年同月との比較では、約2千トン増加したため、前年同月比100.7%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

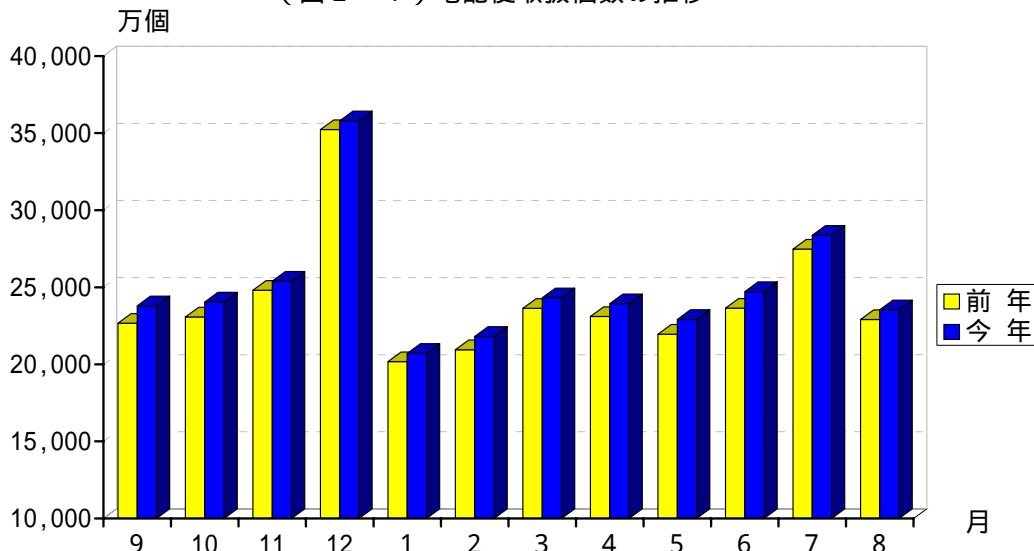


(2) 宅配便の概況

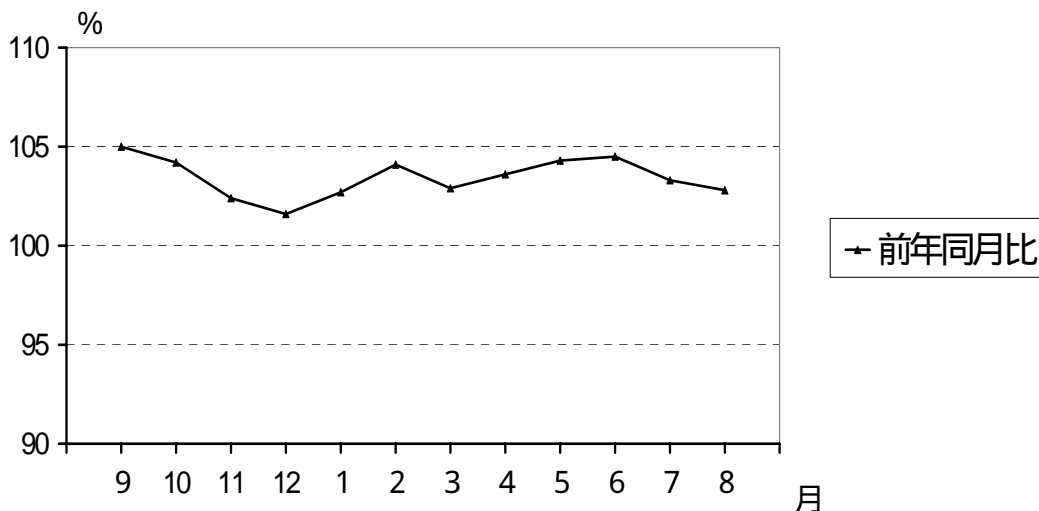
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、235,413 千個で、前月と比べ約 4,833 万個減少したため、前月比 83.0% (季節調整済み 101.8%) となり、前年同月との比較では、約 635 万個増加したため、前年同月比 102.8%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、中元期が終了したことやお盆休み等の影響により、貨物量が減少した。品目別では、一部増加がみられた品目もあるものの、ほぼ全ての品目で減少回答がみられた。減少要因としては、主に工場・生産地からの貨物減、商社・問屋からの貨物減及び倉庫から出る貨物減であったが、「その他(宅配便・百貨店配送品)」ではデパート・スーパーの貨物減となっており、中元期終了の影響が顕著に表れている。地域的には、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」及び「食料工業品」等が3大都市圏を中心に各地域で減少したほか、「その他(宅配便、百貨店配送品)」が神奈川、大阪をはじめ全国的に減少した。

前年同月と比べると、貨物量は減少した。品目別では、「金属製品」、「機械」及び「化学工業品」で工場・生産地からの貨物減を要因とする減少回答が、「食料工業品」及び「日用品」で商社・問屋からの貨物減を要因とする減少回答がみられた。地域的には、「金属製品」が関東、北陸信越、大阪、兵庫、中国で、「化学工業品」が東北、関東地方、中部、近畿地方、中国で、「食料工業品」が大阪、四国で、「日用品」が神奈川、九州で主に減少した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品			13	3	2	野菜、青果物	東北、関東	4
	金属製品		1	15	11		その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機 械	1		16	10		その他の機械、機械部品	関東地方、中部地方、大阪、兵庫、中国	4
	化学工業品		1	16	12	1	その他の化学工業品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7
	繊維工業品			25	4				
	食料工業品		1	17	9		その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、愛知、大阪、近畿、中国、四国	4, 5, 7
	日 用 品		3	14	12		その他の日用品 書籍・印刷物、見廻品	北海道、東北、神奈川、愛知、近畿、中国	5, 10
	そ の 他		2	12	11	3	宅配便、百貨店配送品	神奈川、大阪、全国	2
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	15	2				
	金属製品			18	9		その他の金属製品	関東、北陸信越、大阪、兵庫、中国	4
	機 械	2	1	18	5	1	機械部品 その他の機械		4
	化学工業品		1	19	9	1	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、中部、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品		1	25	3				
	食料工業品		2	18	7		飲料 その他の食料工業品	大阪、四国	5
	日 用 品	1	1	19	7		書籍・印刷物、その他の日用品	神奈川、九州	5
	そ の 他		5	18	5		宅配便、百貨店配送品	関東	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 831 社 / 調査対象事業者数 1,073 社）の輸送量は、前月比 98.4%、前年同月比 101.6%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	98.4%	101.0%	98.3%	95.0%	100.0%	98.1%	94.5%	98.6%	98.8%	98.1%	94.7%
前年同月比	101.6%	103.9%	100.3%	99.2%	105.2%	101.1%	101.7%	99.4%	100.1%	99.5%	107.1%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 101.0%、対前年同月比 103.9%であった。品目別には、本月も建設・土木工事が活発であり、「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したことに加え、気温が高かったため飲料等の食料工業品の輸送量も増加を示した。また、今月はお盆等により稼働日数が減少したものの、収穫期に入った「穀物」、「野菜・果物」等の農産物の輸送量の増加も対前月比・対前年同月比プラスに寄与している。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「石炭」、「機械」の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しについては、農産物のさらなる輸送量の増加や工事関連品目の順調な増加により、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 98.3%、対前年同月比 100.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「水産品」、「その他の化学工業品」等の輸送量が減少したほか、建設関連の需要減等により「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 95.0%、前年同月比は 99.2%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したほか、「金属くず」等の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「金属製品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 100.0%、前年同月比は 105.2%であった。品目別には、輸出入増により「石炭」、「コークス・その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「セメント」、「その他の石油製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 98.1%、対前年同月比は 101.1%であった。品目別には、商社・問屋からの貨物増により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「機械」の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「日用品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、お盆時期の工場連休の影響により対前月比 94.5%となった。また、対前年同月比は 101.7%であった。品目別には、酷暑の影響により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「金属製品」、「機械」の輸送量が減少したほか、倉庫への入出庫減により「金属くず」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 98.6%、対前年同月比は 99.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「水産品」の輸送量が増加した。一方、お盆休みの影響等により「機械」、「セメント」、「その他の化学工業品」、「日用品」等、多くの品目で輸送量の減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 98.8%、対前年同月比は 100.1%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したほか、「鉄鋼」、「機械」等に緩やかな回復傾向がみられる。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」、「セメント」等の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 98.1%、対前年同月比は 99.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「穀物」、「その他の農産品」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したほか、輸出入増により「木材」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「野菜・果物」、「金属製品」、「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 94.7%、対前年同月比は 107.1%であった。品目別には、一部事業者において大規模工事の受注に伴い「鉄鋼」の輸送量が増加したほか、「取り合せ品（航空貨物、内航小口混載貨物）」の輸送量が増加した。一方、「野菜・果物」の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増	3	1		1					3		8	
	減	1	1							1		3	
2. 野菜・果物	増	6	4	1	1			4		3		19	
	減	2	2		2			1	1	5	1	14	
3. その他の農産品	増	2	1							2		5	
	減		1			1						2	
4. 畜産品	増	1						1				2	
	減									1		1	
5. 水産品	増	1	1					2				4	
	減	1	2					1		1		5	
6. 木材	増	2			1					2		5	
	減	4	1		1							6	
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増				1							1	
	減	2										2	
9. 金属鉱物	増												
	減					1						1	
10. 砂利・砂・石材	増	11	3		1				1	3		19	
	減	7						1	2	3		13	
11. 工業用非金属鉱物	増	1										1	
	減		1		1							2	
12. 鉄鋼	増	1	1				1		1	2	1	7	
	減	1			1		1	2		1		6	
13. 非鉄金属	増												
	減		1		1							2	
14. 金属製品	増		1				2	1				4	
	減	1		3	1		3	2		2		12	
15. 機械	増				1		1	2	1	3		8	
	減	2				3	4	4		2		15	
16. セメント	増	2			1					2		5	
	減	2	2		2	1	1	4	1	4		17	
17. その他の窯業品	増									2		2	
	減		1					1		2		4	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増							1		1	
18. 揮発油	減	2										2
19. その他の石油製品	増	2	1		1			1		1		6
	減	2			2		1			1		6
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
	減		1									1
21. 化学薬品	増											
	減				1					1		2
22. 化学肥料	増	1	1									2
	減	1			1					1		3
23. その他の化学工業品	増						1	1	1			3
	減		3					4				7
24. 紙・パルプ	増	1			1	1	1			1		5
	減		1	2		1		1				5
25. 繊維工業品	増								1	1		2
	減					1	2					3
26. 食料工業品	増	4	6	1	1	2	7	4	4	3		32
	減		3	1	1		2	5	2			14
27. 日用品	増	1			1				1	2		5
	減					1		4		2		7
28. その他の製造工業品	増			1		1	2	1		2		7
	減		2	1		2	1			3		9
29. 金属くず	増			1								1
	減						2					2
30. その他のくずもの	増											
	減	1										1
31. 動植物性飼・肥料	増	2		2				1	1	3		9
	減	1										1
32. 廃棄物	増			1					1	3		5
	減		1					1		3		5
33. 輸送用容器	増	1	1									2
	減											
34. 取り合せ品	増		1							1	1	3
	減		2			2		1				5
35. その他	増				2			2	1	4		9
	減			1	2		2	2		4	2	13